

日本ドキュメンタリー動画祭

# 橘さん(行橋市)グランプリ

「出張紙芝居」中村さんの活動追う



賞状を手にする橘さん(左)と、パソコンで「出張紙芝居」を見せる中村さん

再生回数約4000件で、約70点の応募作の上位となり、1次審査を突破。今月6日、4作品で争った2次審査でグランプリに決まった。審査員の一人、映画監督の大林宣彦さんは「作者の優しさ、冷静さ、うまさがかみ合って心地よい」と講評した。

橘さんは東京の映画学校在学中の昨年、朝日放送(大阪市)主催のショートムービーCMグランプリで審査員特別賞を受けた。卒業後、行橋市に帰郷。短編映画祭に出品しながら長編挑戦の機会を狙っている。

橘さんは「いけるとは思っていたが、受賞が決まった時は『ヨッシャー!』という気持ちだった。賞金で米ハリウッドに修業に行きたい」。中村さんも「最初は僕が題材になるのかと思ったが、立派な作品になった」と喜んでいる。

行橋市の映像作家、橋剛史さん(23)の作品「出張紙芝居」が「第2回日本ドキュメンタリー動画祭」(日本財団主催)でグランプリ(ドキュメンタリー部門)を受賞した。「笑顔」がテーマで、学校などへの訪問紙芝居を

続ける市文化振興公社嘱託職員、中村将秀さん(27)の活動を追った。

橘さんは7月に作品募集を知り、知人の中村さんの訪問紙芝居活動を題材に決め、8月下旬から撮影、編集。締め切り前日の9月29日、約20分のDVD作品にして出品した。

「出張紙芝居」は19歳の時に脳内出血で倒

動画祭は、応募作を動画共有サイト、YouTubeに掲示して感動を広げることが目的とし、1次審査に再

回数が増える。再生回数が加味される。

「出張紙芝居」は19歳の時に脳内出血で倒